

観点別評価規準 (案)

観 点		評価規準
関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイクロファイナンスの基本的な役割について理解しようとしている。</li> <li>●マイクロファイナンスの背景にある考えを理解しようとしている。</li> <li>●マイクロファイナンスが貧困者に与えるものを列挙し、具体的な活用例を読みとろうとしている。</li> <li>●マイクロファイナンスが個人だけでなくグループにも活用されていることを読み取り、個人との違いを理解しようとしている。</li> <li>●マイクロファイナンスの歴史と今後の展望を理解しようとしている。</li> </ul>
表現の能力	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本文に関する質問を英語で作成することができ、教師側からの発問についても的確に答えられる。</li> <li>●意味のまとまりを適切に区切り、リズムを持って説明や発表をすることができる。</li> <li>●新出単語とそれを含む例文を暗唱することができる。</li> <li>●グループ活動において積極的な会話を行い、自身の考えをうまくまとめることができる。</li> </ul>
	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新出単語とそれを含む例文をすばやく筆記することができる。</li> <li>●新出の文法事項を含む本文を記憶し、教師側の指示や質問に適切に対応することができる。</li> <li>●本文にある情報を簡潔に表にまとめ、要約文を作成することができる。</li> </ul>
理解の能力	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本課本文、英問並びに教師側の質問を正確に理解できる。</li> <li>●グループ活動において他者の意見を聴き議論することができる。</li> </ul>
	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各パラグラフにテーマやトピックセンテンスを示すことができる。</li> <li>●各パラグラフ内の英文を正確に理解することができる。</li> <li>●音読に必要な技能（強勢、リズム、区切り）の習得に向上がある。</li> <li>●直読直解の技能獲得に向けて努力をしている。</li> </ul>
言語や文化についての知識・理解		<ul style="list-style-type: none"> <li>●既習の文法内容とディスコースマーカーの有用性を駆使して、新出英文の理解に取り組んでいる。</li> <li>●マイクロファイナンスの活用例を自分の身の回りで探し、活用できそうなことを考え、短い英文で表現しようとしている。</li> </ul>

評価の判断基準となる項目のリストを観点別にご用意しました。